

令和5年の水稻における斑点米カメムシ類と斑点米の発生状況

水稻巡回調査圃場での斑点米カメムシ類(以下、カメムシ類)のすくい取り調査および普及センターの水稻定点調査圃場の調査米(以下、定点調査米)の斑点米等発生調査の結果をもとに、令和5年の水稻におけるカメムシ類と斑点米の発生状況についてまとめましたので、次作の参考にしてください。

【調査方法および結果の概要】

1. カメムシ類の発生状況調査(すくい取り調査)

水稻巡回調査圃場57地点において、7月上旬調査ではカメムシ類の虫数は平年値を上回ったが、7月下旬以降は平年値を下回った。クモヘリカメムシの発生は県北および県央地域で多く、8月上旬の虫数は、平年よりやや少ない～少なかった。イネカメムシの発生は県北地域以外で認められ、8月上旬の虫数は、平年よりやや多かった。(令和5年9月29日発表 病虫害発生予報10月号p9-10防除所レポート参照)

2. 斑点米等の発生状況調査

定点調査米計37点について、斑点米等の発生粒数を被害部位・種類別に調査した。精玄米1,000粒当たりの斑点米等の発生粒数は、鹿行4.0粒と多く、県央2.7粒、県北2.5粒、県西2.4粒、県南1.5粒であった。各地域の被害部位をみると、県北では側部(71%)、県央では基部(58%)、鹿行では側部(50%)および基部(46%)、県南では基部(47%)および側部(40%)、県西では基部(61%)が多かった(表1)。本年産の斑点米等発生粒数は、過去11年中1位で、平年より多かった(図1)。

表1 普及センター水稻定点調査圃場における斑点米等発生状況

地域 [圃場数]	被害部位・種類における発生粒数(粒/精玄米1,000粒) ¹⁾				合計
	側部 ²⁾	基部	頂部	カメムシ黒点米 ³⁾	
県北 [4]	1.8 (71%) ⁴⁾	0.2 (8%)	0.3 (12%)	0.2 (8%)	2.5
県央 [6]	0.5 (17%)	1.6 (58%)	0.6 (23%)	0.0 (1%)	2.7
鹿行 [6]	2.0 (50%)	1.8 (46%)	0.1 (2%)	0.1 (2%)	4.0
県南 [10]	0.6 (40%)	0.7 (47%)	0.2 (12%)	0.0 (1%)	1.5
県西 [11]	0.7 (30%)	1.5 (61%)	0.2 (7%)	0.1 (2%)	2.4
全県 [37]	1.0 (39%)	1.2 (49%)	0.2 (10%)	0.1 (2%)	2.5

1) 数値は四捨五入しており、部位・種類別の計と合計が一致しないことがある

2) 背部、腹部を含む

3) 頂部被害とくさび状の裂開がみられるもの

4) 括弧内の数値は部位・種類別の割合を示す



基部被害

【考察】

カメムシ類が米を加害する部位は、クモヘリカメムシが側部、イネカメムシが基部、アカスジカスミカメは頂部であることが多いとされている。これに基づいてカメムシ類の加害種を地域別に推測した結果、県北地域ではクモヘリカメムシ、県央および県西地域ではイネカメムシ、鹿行および県南地域では両種が優占していると考えられた。

近年、イネカメムシの発生が認められる圃場が増加傾向にあるため、引き続き本種の発生に注意する必要があると考えられます。

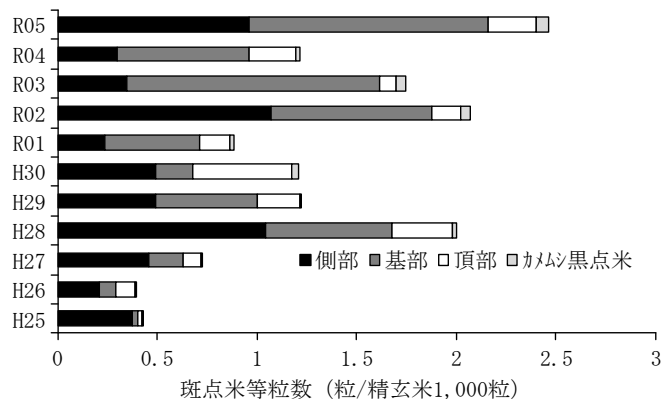


図1 普及センター水稻定点調査圃場における斑点米等発生状況の年次推移